



## 農場見学会

1月27日、鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議及び鶴居村野生鳥獣被害対策協議会の共催により、下久著呂地区で農場見学会が実施されました。本見学会は、非農業者の酪農業への理解を深めるとともに、タンチョウとの共生に向けた取り組みに興味・関心を高めることを目的として開催され、春先のデントコーン畑でのタンチョウ追い払い活動に参加している村民を中心に、19名が参加しました。

当日は、農場2カ所とTMRセンターを訪問し、参加者は搾乳方法などの酪農業のあり方や農場ごとの特色、飼料の収穫や管理方法などについて理解を深めました。

昼食時には、訪問先の農業関係者に加え、地区内の農家のみなさんにも参加いただき、春先の追い払い活動については、農家の方から「助かっている」「ありがたい」との声が寄せられました。

## 女性が輝くむらづくりフォーラム開催

鶴居村第5次総合計画に掲げる男女共同参画を推進する取組の1つとして、2月1日、鶴居村村民スポーツ・健康増進施設（ファミスポ・アップ）にて女性が輝くむらづくりフォーラムを開催しました。当日は約40名の方々に参加いただき、講師には釧路市議会議員の夏堀めぐみ氏、株式会社グロッシー代表取締役の北村貴氏をお招きし、ご講演をいただきました。

夏堀氏は「地域全体でつくる、未来につながるコミュニティ」と題して、議員になったきっかけや議員になってからの気づきなど、北村氏は「小さな町のジェンダーギャップと戦略～浦幌町アンケート結果より～」と題してデータに基づいた現状把握と今後の戦略、浦幌町における具体的な取組事例などについて紹介いただきました。



## 釧路しんきん地域貢献表彰受賞

鶴居村タンチョウ愛護会の活動が釧路しんきん地域貢献表彰を受賞し、2月6日に行われた表彰式に土居会長と事務局が出席しました。本制度は地域社会の活性化を目指して活動する団体を顕彰する制度で、今回は同会を含む3団体が受賞しました。

表彰式は釧路信用金庫の森村好幸理事長のあいさつに始まり、審査委員5名からの講評がありました。審査委員からは、長年にわたる活動の継続によるタンチョウ保護への貢献、タンチョウと地域との共生や地域の活性化に向けた取り組みを高く評価いただきました。

土居会長からは、これまでの取り組みとその成果を発表するとともに、今後も一層活動を推進し、タンチョウ保護や地域の活性化に貢献していく決意が述べられました。



## 北海道鶴居村 稼げる観光へ —アドベンチャートラベル発表会—

村では、令和8年2月5日、東京都千代田区のTOKYO FMホールにおいて、「北海道鶴居村 稼げる観光へアドベンチャートラベル発表会」を開催しました。本発表会は、釧路湿原国立公園を抱く鶴居村が、景観と自然を守りながら地域の未来を切り拓くために進めている、自然と共生する「稼げる観光」の方向性を全国に向けて発信することを目的に、内閣府の地方創生伴走支援制度の支援を受けて実施したものです。

当日は、村長による構想発表をはじめ、自然体験と地域文化を結びつけたアドベンチャートラベルプログラムや、鶴居村認定ガイド制度の考え方が紹介されました。また、宿泊・飲食・ガイドなど複数の地域産業を連動させ、地域全体で「稼ぐ仕組み」を構築するモデルについても説明が行われました。

さらに、日本航空株式会社、西武トラベル株式会社、株式会社大塚商会、エステ株式会社、株式会社ゴールドウインとの官民連携事業をはじめ、國學院大学観光まちづくり学部との大学連携の取組みが発表されました。あわせて、鶴居村音楽祭で協力いただいている村内在住の指揮者・石川征太郎氏によるピアノ伴奏と、ヴァイオリニスト・成田達輝氏による演奏も披露され、「日本で最も美しい村」鶴居村の魅力を多角的に発信する発表会となりました。

## 釧路風林カントリークラブ様より寄附

2月10日、風林文庫図書購入費として釧路風林カントリークラブ様より10万円の寄附をいただきました。

釧路風林カントリークラブ様は昭和62年に村の社会福祉事業費の一部として寄附があり、昭和63年からは「風林文庫」の購入費として、毎年寄附をいただいております。

鶴居村ふるさと情報館内の図書館には、これまでに頂いた寄付金を活用して購入した図書を紹介する「風林文庫コーナー」を設置しています。お立ち寄りの際は是非ご利用ください。



## サンクチュアリにえさ寄贈

下幌呂小学校と鶴居村女性団体連絡協議会が、それぞれ収穫したデントコーンを合同で粒状にほぐし、2月12日にできあがったタンチョウのえさ161kgをサンクチュアリに寄贈しました。

当日は全校児童と鶴居村女性団体連絡協議会の2名がサンクチュアリを訪問しました。全員を代表し、下幌呂小の6年生児童3名がえさの入った袋をレンジャーに寄贈し、児島創さんから「みんなで協力して作ったえさです。タンチョウにたくさん食べてほしいです。」とのメッセージが伝えられました。

レンジャーが早速そのえさを給餌され、児童たちは自分たちの作ったえさをついばむ様子をはじめ、タンチョウの行動を観察しました。

この活動は平成20年度から毎年行われています。